

心豊かな「すてきさん」つくり ～ えがお・げんき・あいさつ～  
かんがえ、やってみる子 いたわり、助け合う子 せいっぱいがんばる子 いまいと元気な子

一人一鉢、年長児が大切に  
育てているパンジー



開成町立開成幼稚園

# たいよう通信

第9号

発行日：令和7年1月31日（金）

発行者：園長 杉山 孝史

## いよいよあと2ヶ月

新しい年の幕開けと同時に令和6年度の3学期が始まりました。年末から年始にかけて、子どもたちは健康で安全に過ごせたようです。再び元気いっぱいの子どもたちを迎えることができ、嬉しさいっぱいです。冬休みの間、保護者や地域の皆さまには、子どもたちの様子を丁寧に見ていただきありがとうございました。



第3学期始業式に初めて全園児が集まりのびのびと園歌を歌いました

今年度も残すところ2ヶ月になりました。幼稚園での生活も一年間のまとめの時期に入ります。子どもたちと一緒にこれまでの園生活を振り返り、がんばってきたことやこれからのめあてなどを確かめ合いながら、充実した毎日が過ごせるようにしていきたいと思えます。子どもたちが「心豊かなすてきさん」に成長してくれることを願って、職員の気持ちを一つに全力で指導してまいります。引き続き皆さまのご支援とご協力をお願いします。

## 年長・交通安全教室



1月17日（金）、4月から小学生になる年長の子どもたちが「交通安全教室」に参加し、安全な道の歩き方や横断歩道の渡りなどを体験しました。この日は、開成町交通安全指導隊や松田警察、PTA役員の方々方が道路の所々に立って、子どもたちにやさしく声を掛けてくださいました。

横断歩道を渡る手前では「私は、必ず、止まります」という三本指の約束を一人一人行い、右・左・右に大きく顔を振って車が来ていないことを確かめてから渡っていました。また、どんぐり会館の1階

では、交通ルールに関するDVDを視聴した後、交通指導隊長さんや警察官の方から安全な道の歩き方について教えていただきました。

小学校では、子ども一人や近所の友達どうしでの登校がほとんどです。4月からの登校が始まる前までにお子さんと一緒に小学校までの道のりを歩いていただき、危険箇所や横断歩道の渡り方などを確認していただければと思います。子どもたちが、安全に安心して道を歩くことができるよう、引き続き地域の見守りをお願いします。

## ベンチづくりに挑戦

12月25日（水）午後、幼小中高連携教育の推進と職員研修を兼ねて、本園の職員が県立吉田島高校を訪れて木工に挑戦しました。製材用の重機を操作して太丸太から厚さ3cmほどの板を切り出し、1m20cmの長さにカットした後、板と角材を組み合わせて手作りベンチを完成させました。木の香りや質感、温かみや風合いは癒しの効果抜群です。日頃のストレスを忘れて、心身ともにリラックスする時間を楽しみました。3時間ほどかけて6台のベンチを完成させました。



冬休み明け、子どもたちにベンチをお披露目しました。数日後、興味をもった子どもたちが集まり、板の角やささくれをサンドペーパーできれいに磨き上げてくれました。これで腰かけても安心です。今後、このベンチは遊びや生活などいろいろな場面で役立ち、子どもたちの思い出づくりに一役買うことでしょう。今回、ベンチづくりを丁寧に指導くださった吉田島高校の先生方に感謝です。ありがとうございました。

# 火事になったらすぐ逃げろ

「給食室の回転釜が火事です」わくわくタイムで遊んでいる最中に、火災発生を知らせる放送が突然流れたら、子どもたちはどのような行動をとるので



しょうか。1月22日(水)、事前予告なしの火災避難訓練を実施しました。放送を聞いた子どもたちですが、特段あわてることもなく園庭にいた子ども園舎内にいた子ども、近くの先生の指示をしっかりと聞いて素早く避難できました。さすが開成園児、すてきさんです。避難の様子を見ていた消防士の方からもお褒めの言葉をいただきました。(写真)最後に「地震が来たらダンゴムシ、火事になったらすぐ逃げろ」の合言葉を子どもたちと確認しました。「大切な命は自分で守る」を肝に銘じ、万が一の災害にしっかりと備えたいと思います。

# うさぎを飼ってもいいですか

先日、年中・うさぎ組の子どもたちから私のところに一通の手紙が届きました。「ゆきちゃんがさみしそうだからうさぎのともだちをかってもいいですか?」今、年中の子どもたちは交替でゆきちゃんのお世話をせさせてとしています。これまで、隣の

小屋にいたうさぎのここあちゃんは、去年の4月に天国へ行ってしまい、ポツリと寂しそうにしているゆきちゃんのことが気になっていたのでしょうか。園長先生なら自分たちの願いを聞いてくれると思ったのでしょうか。

「飼ってもいいですよ」と直ぐに伝えてあげたかったのですが、なかなかそうならない事情もありました。長い休み中の世話をどうするのか、厳しさを増す夏の猛暑に耐えることができるのかなど、クリアしなければならない課題がありました。一方、子どもたちの成長過程の中で生き物に接する機会をつくってあげたい、開成幼稚園の特徴を出したい、動植物とふれ合うことで命の大切さを学ぶことができる、当番活動を通して責任感や協力する気持ちが育つなど、職員間で議論を重ねてきました。

ついに結論が出ました。早速、うさぎ組の子どもたちに返事を書きました。「うさぎぐみのみなさんへいつも、うさぎのゆきちゃんをたいせつにしてくれてありがとう。<中略>こどもたちのために、もう1ぴきうさぎをかおうということになりました。」手紙が読まれると、子どもたちは小躍りをして



喜びました。(写真)もうすぐ幼稚園に新しいうさぎさんがやってきます。その日の幼稚園は、子どもたちの笑顔で溢れかえることでしょう。

## ☆ひだまり

### 手紙



▼2学期終業式では、交通事故に遭わないための注意点を子どもたちに話そうと決めていました。そこで思い付いたのが、タヌキのボン吉という創作キャラクターにそれを代弁してもらおうことでした。枯れ葉風にかたどった手紙、足柄山に住んでいるという親近感、愛らしいタヌキのキャラクターが語るお話の世界に子どもたちは見事に引き込まれていきました。この手法は、キャラクター「コミュニケーション」と呼ばれ、時として当事者本人が直接語りかけるよりも効果的なこともあります。例えば、「おじいちゃんが、あなたのことを優しい子だっけと覚えていたよ」というメッセージをお母さんが子どもに伝えたとします。言われた本人はルンルン気分ですし、おじいちゃんばかりかお母さんへの好感度もアップします。▼1月20日、私が育てた白菜を給食の食材として提供しました。すると、どうでしょう、続々と子どもたちからお礼の手紙を渡されました。「おいしかったよ」「あまかった」「たべれないけど、おいしそう」「えんちようせんせいのはたけへいってみたい」など、子どもたちの素直な気持ちに心がほっこりしました。早速ペンを取り、子どもたちに返事を書きました。また、先日、卒園児から元の担任宛てた手紙が届きました。手紙には、小学校生活を楽しく元気に送っている様子が書かれていました。担任は、手紙をくれた子一人一人に返事の手紙を書いていました。▼アメリカの絵本作家アーノルド・ローベルの「がまくんとかえるくん」シリーズの一篇に「おてがみ」という作品があります。一度も手紙をもらったことのないがまくんを不憫に思ったかえるくんは、がまくんに手紙を書きます。「親愛なるがまくん・・」その手紙には、がまくんに対する感謝の気持ちや友情が綴られていました。手紙を受け取ったがまくんは、かえるくんの気持ちに感動します。この先、二人の友情がさらに深まったことは言うまでもありません。

▼手紙は、書き手の近況や思いを直接伝える手段の一つです。相手の気持ちに寄り添った手紙を渡すことで、お互いの絆が深まり親密な関係が築かれます。筆不精の私ですが、遠くに暮らす親愛なる友人に、近々手紙を書いてみようと思えます。